京大生、手島で竹林伐採　丸亀、島の活性化へ

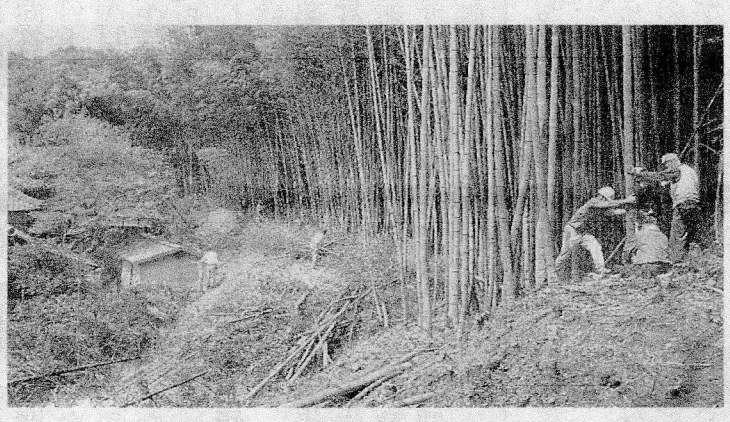
全国各地で農業を通じた交流活動を展開している京大の学生を中心とした島の活性化プロジェクトがこのほど、丸亀市の手島で始まった。学生は竹林伐採などに取り組むとともに、住民との触れ合いを通じて、島の豊かさや人口減少が進む現状に理解を深めた。

学生は、四国や県内の文化を欧州に紹介するＮＰＯ「四国夢中人」（丸亀市）の尾崎美恵代表との出会いをきっかけにプロジェクトを始動。手島の人口は30人程度で、島の規模や過疎の状況を踏まえ、第１弾の事業を行う島に選んだ。

京大のサークル「農業交流ネットワーク」の学生のほか、ＪＲ四国や県農協、仲南町森林組合などから計約40人が参加し、２泊３日で活動。学生らは安養寺の裏山一帯で、約４００本の竹を伐採してチップ化する作業に汗を流した。伐採した竹を使って流しうどんを楽しみ、トウガラシ「香川本鷹」の苗の植え付けも行った。

大学院生の尾崎純さんは「島の人と汗を流したことで生まれた連帯感や、課題に対して芽生えた当事者意識が収穫」とコメント。３年の平井良江さんは「人を呼び込むことは必要だが、島の環境を維持する重要性を深く考えさせられた」、２年の中村亮太さんは「島を外部から画一的に活性化させることには違和感を感じた」と振り返った。

手島自治会の藤原当正会長は「想像した以上の成果をもたらしてくれて、みんな喜んでいる」とした。次回は夏休みに行う予定。



竹林を伐採する活性化プロジェクトの参加者＝丸亀市手島